



かやぶき屋根の母屋



ネドコ

立派な実をつけます。収穫された実は訪れた人におすそわけされます。みなさん御利益がありそうだと喜ばれるとのこと。

ちなみに、ちひろさんのころを一番つかんだのは、敷地一面に敷き詰められた砂利の感触でした。お屋敷そっちのけでざくざくと音を立てて遊んでいました。こういうことも、今ではあまり経験できないことかもしれませんね。



裏側

独特の雰囲気醸したす御所柿

旧永井家庄屋敷

- 開館時間
午前9時～午後5時
- 休館日
第三水曜日
年末年始
- 入場無料
- 問い合わせ先：
0883-62-2018



心つくされたお花が門を彩ります



てくてく

由緒ある書がお出迎え

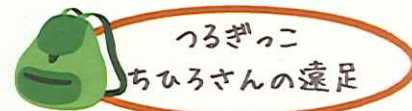


段差注意!

庭園をながめてみる...



お部屋の前ではいポーズ♪



旧永井家庄屋敷(貞光宇町)

二歳のつるぎっこ ちひろさんが、おすすめスポットを訪ねます。

二層うだつで有名なつるぎ町貞光の町並みのなかに、敷地約550坪の茅葺きのお屋敷があります。18世紀後期に創建されたと伝えられています。もともところちで生活を営んでいた永井家は、江戸時代は4代にわたり庄屋職をつとめていました。明治以降は医者として生業をたてており、診療棟や入院棟も増設されていました。現在の子孫は東京にお住まいとのこと。

現在は町指定有形文化財として町が管理保存につとめています。築地塀(板をしんにして泥で塗り固め、屋根を瓦でふいた土塀)が囲み、南面の切妻本瓦葺きの表門から入ると、正面の8間取りの母屋を中心に、北に蔵、西にネドコがあります。鶴亀蓬莱庭園(座視鑑賞式)や井戸など、その歴史を今に伝えるたたずまいを色濃く残しています。

お庭には、花梨や郁李、それからレッドデータブックに掲載されている絶滅危惧種のすずかけ草など、四季折々の花や木々が植えられています。とくに樹齢約400年、幹周り2.3メートルを誇る御所柿は必見。塀側の幹は空洞化しており、一見、枯れているのかのように見えるのですが、毎年



お庭は四季の花や木で彩られています。